

「彦根城」の課題について

1. 推薦書案における「彦根城」単独の資産により大名統治システムを物証することの説明について、様々な説明方法を検討することで、その選択肢が絞り込まれてきたという進捗が見られる。他方、城の歴史的側面の比較分析として、大名の家格、知行高、将軍家との親疎関係、近世に新築されたか否かといった観点から、一定の範囲の城を抽出することについては、それらの比較の観点や具体的な線引きの基準の妥当性や客観性に関して、イコモスから指摘を受ける可能性がある。他城との比較を行い、その中から彦根城を抽出する際には、上記を踏まえて説明の充実を図ること。
2. 資産の遺存状況について、城のどの部分についてその状況判定を行うかについての特定や、地下遺構と地上の建造物とに分けての検討など、分析の精緻化が図られた。他方で、遺存状況の判定を「考古学的遺構」・「建造物」・「その両方」のうちどの観点で行うかについて、遺存状況が良いものとして残った複数の城に関して定性評価による絞り込みを行う過程について、客観性に疑義が生じないよう説明の充実を図ること。
3. イコモスの事前評価で課題として示された大名統治システムに関する説明について充実が図られた。他方で、推薦書案において、「城（城郭）」には行政実務を行う施設や城下町が含まれるのか、「大名」とはどの範囲を指し示すのかなど、大名統治システムの鍵になる概念について十分に説得的な根拠を持って示されていないため、その点についての説明の充実を図ること。
4. 上記で指摘した説明の骨格部分以外についても、推薦書として記載が求められる事項については網羅するよう、説明の充実を図ること。